

# 自分の軸に気づく 志望理由書の指導

推薦入試、AO入試の増加とともに、志望理由書作成の指導法で悩む学校が増えています。いくら書く練習をして表現力を磨いても、その進路に進みたいという強い意志がなければ書けないのが志望理由書。どこまで主体的に自分の進路を考えられるか…それが志望理由書作成のカギといえそうです。

取材・文／永井ミカ

体験からの学びを自分の言葉で伝える練習を

これまでの作文とは違い、志望理由書というものは相手があつて成立する、生徒にとつて初めての、実用性の文書。いくら書く練習をしても、生徒自身がその目的や意義を知らないとなら進めません。まずは知らない人に意欲を伝える文書であることをしっかりと意識させ、明確なゴールを設定して練習をしましょう。

## お手本は先輩の志望理由書

最初に必要なのは、これまでの体験の棚卸の作業。過去や現在、どんな体験をしながら生きてきたのか、自分とはどういう人間なのかを小さなパーツに分けて少しずつ取り出していきます。そこから、進学後どうなりたいのか、どんな将来を思い描いているのかを導き出していきます。

なお、小論文指導ではまず「型」を教えますが、志望理由書は大学によってフォーマットが多様で、内容も個人差が大きく、指導にコツが必要です。おススメは、先輩が書いたものを見せること。部活のこと、小学校時代の思い出など、一見よくあるエピソードを上手に志望理由に活かして書いている先輩の文章を見せ、生の体験を自分の言葉で伝えるという好例を示してあげたいものです。

## 指導ポイント

### アドバイス1

#### 国語の授業やLHRの時間などに書く練習を

1年生のときから、行事や部活の感想など書く練習をしていきます。生徒はささいな体験は「書く価値がない」と考えますが、体験から感じたこと、学んだことに意味があるということを伝えましょう。書いたものはファイリングしておく、後々の資料になります。

### アドバイス2

#### 2年生からは志望理由書を書くことを意識させる

2年生になったら、ただ書くだけではなく志望理由書というものを意識させます。過去や現在の体験を棚卸したら、それを志望と結びつけ、自分の言葉で表現させます。書くことと話すことは連動します。書けない場合は面談で引き出したり、面接の練習と一体化させるのもおススメです。

### アドバイス3

#### 同級生の例文より先輩の例文が実践的

クラスメートも受験のライバル。志望理由書の練習の場合、グループワークで見せ合ったりするのはあまりおススメできません。それよりも先輩の書いたものを例として見せるほうがよいでしょう。なるべく普通の体験を元にした志望理由書を選び、「これで〇〇大学〇〇学部を受かった」という実績があるとより効果的です。

### 今号のアドバイザー

常に先進的な授業を  
実践している

国語教育のエキスパート。

朝日中高生新聞で

「天声人語で200字作文」

を連載中。



共立女子第二中学校高校  
(東京・私立)  
国語科教諭・進路指導部副主任・  
共立女子大学非常勤講師・  
学校心理士

伊藤久仁子先生



# 自分の考えを文章にまとめることで 進路を考え切り拓く力を身につけていく

## 課題

付属校ということもあり安易に進路を選んでしまう生徒がいる。  
将来の進路と学部選択のミスマッチが起こる場合がある。

## 日本大学鶴ヶ丘高校（東京・私立）

日本大学鶴ヶ丘高校は日本大学の付属高校のひとつ。普通コースと特進コースがあり、例年6〜7割の生徒が日本大学のさまざまな学部に進学するほか、特進コースの生徒を中心に他大学へ進む生徒もいる。そんななか、進路を自分で考え開拓する自主創造型の生徒を育てるため、3年間を通してキャリア教育に力を入れている。

### 自分を見つめ書くことが 進路を真剣に考える機会となる

1年生では「職業理解を深める」、2年生では「大学情報の収集と進路決定」、3年生では「大学進学の実現」をテーマに、3年間を通してキャリア教育を実施している同校。生徒は進路講演会や模擬講義、全員参加のオープンキャンパスで外部

からの刺激を受けながら、真の第二志望を見つけ進路実現へと向かっていく。

進路行事で学習したことはオリジナルの「キャリアノート」に記録したり、新聞記事を読んで内容をまとめるなど、折に触れ文章を書く機会を与えている。例えば、2年生の夏の課題として出されるオープンキャンパスレポートは、A4用紙にぎつしり4ページ分。そして、3年生になったら志望理由書を書く練習を始める。指導するのは外部講師の講習を受けた各担任だ。6月には必ず、普通コースの生徒全員が標準的なフォーマットに沿った志望理由書を書く。

「以前は安易に大学や学部を選び、入学後にミスマッチに気づくということもありました」と進路指導部主任の新藤隆夫先生。しかし、常日頃から、自分を見つめながら

書く作業を意識的に行うことにより、文章力が身につくだけでなく、真剣に進路を考えることにつながり、ミスマッチも減っていったという。「特に志望理由書を二度書いてみるということは重要。書きながら進路意識を高めたり、問題意識をもったり。また、担任が添削しながら生徒の進路志望の矛盾点を発見することもあります」。

最終的に校内で仕上げる800文字の志望理由書は、日本大学各学部への内部推薦や外部推薦の選考資料にもなる。「成績を満たしていることはもちろんですが、本当にその学部に行きたいのか、将来的に進みたい道と学部が合致しているのかを確認します」と新藤先生。さらに、内部進学を含め校内選考が必要な推薦希望者全員が校長と面接。一人ずつ意志を確認し、納得のいく進路選択につなげている。

### オープンキャンパス振り返りシート

将来、志望理由書を書くためには、大学の実際の様子を見ることも必要。学びの内容や校風をチェックし、自分に合うところや合わないところなどを記述したレポートの提出が2年生の夏休みの課題。

#### School Data

1951年創立 / 普通科  
 生徒数1350人(男子574人・女子776人)  
 進路状況(2013年度実績)  
 大学92.3%、短大2.4%、専各1.0%、  
 就職0.0%、その他4.3%

# 学校設定教科「キャリアデザイン」を通して 身についた、進路を自分で考え、表現する力

## 課題

学習や進路選択にもっと主体性がほしい。  
進路選択の目標設定が低い傾向がある。

## 知立高校（愛知・県立）

知立高校はキャリア教育への取組を始めて3年目。生徒の主体性を引き出すことを狙いに文部科学省の指定を受け、普通科の生徒が進路意識を高揚させ将来の見通しをもてる教育課程の編成を目指し、研究・実践を行っている。

### 事前・事後学習を充実させ 日常的に書く練習をする

同校では、3年前に学校設定教科として「キャリアデザイン」を創設し、ほとんどゼロから系統的キャリア教育をスタートさせた。1年生では「自分探し」、2年生では「生き方の発見」、3年生では「社会の中の自分」をテーマに、職場訪問や進路先の研究、キャリアプランニング、講座別学習などを実施。「生徒が主体的に課題感をもつ

て学び、進路を自分で切り拓き、スムーズに大学での学習に接続できる実践とは何かを考えて授業開発しています」と、教務主任・研究主任の竹内道治先生は言う。

例えば、3年生の講座別学習はゼミ形式にし、自分で講座を選び課題を見つけることからスタートする。竹内先生が担当した統計学研究講座では、チームで学んでいくなかで、失敗を重ねながら自己管理能力や自己キャリア形成力を育成していくことを狙いとした。

同校普通科では一般入試を推奨しており、これまで特に志望理由書作成の指導は行っていなかった。しかし、12講座ある講座学習のひとつ「文章表現実践（[図参照](#)）」では、15時間かけ、伝わる文章とは何かを考えることから始め、志望理由書を書き、発表し、相互評価を行う授業を行った。

様々な取組において事前・事後学習と振り返りを重視。その結果、「自分についてよく考えるようになり主体的な進路選択に役立ちました。事前にしっかりと調べること、事後に考えをまとめて書くという力も身についたと思います」と竹内先生。また、「社会の中での自分の役割などにも踏み込んで考えられるようになった」というのは進路指導主事の鈴木啓和先生。結果、生徒が進路に対して高めの目標をもつようになったそうだ。

今年度、何名かの生徒が国公立大学のAO入試、推薦入試に挑戦。キャリア教育によって身についた「情報活用能力」や「自分の考えをまとめて表現する」という力に加え、担当がきめ細かく志望理由書作成や面接を指導。普通科で5名の合格者を輩出した。

### 「文章表現実践」の 授業展開

時間	学習活動
1	「講座別学習ガイダンス」 (全講座共通)
2 3	「文章を書く基本を知る」 ・分かりやすい文章を書くための要点をプリントで提示する。 ・新聞の投書欄に掲載された文章を配布し、何が分かりやすさの要因かを考えさせる。 ・型を提示し、その型に従って短文を書く。 ・短文ながらも、論の通った文を心掛けさせる。
4 5	「志望理由書を下書きする」 ・看護系に進んだ卒業生の志望理由書を読ませる。 ・気持ちが強く伝わる要因を考えさせる。 ・自身の志望理由書の下書きをする。
6 11	「志望理由書の推敲・清書」 ・個別指導で推敲を繰り返す。 ・合格した者から清書に入る。
12 13	「志望理由書を発表し、評価し合う」 ・評価表を配布し、それぞれに評価させる。 ・発表者は自分の思いが伝わるように、発表の仕方を工夫させる。
14	「発表の振り返り」 ・評価表を発表者各自に返却し、先日の発表の振り返りを行う。
15	「講座別学習の反省」 ・講座別学習の振り返りを行う。

今年度初めて実施した3年生のキャリアデザインⅢの講座別学習では、「文章表現実践」を開講した先生も、15名の生徒が参加し、志望理由書を書き上げた。

#### School Data

1949年創立 / 普通科 商業・情報処理科  
生徒数951人(男子345人・女子606人)  
進路状況(2013年度実績)  
大学41%、短大13%、専各18%、  
就職3%